

松陰高等学校（通信制）評価 総括

<b>学校</b>	・生徒の個性を重視した寺子屋に学び、個々の能力に応じた個別指導を通して学力をつけ、生徒に自信をもたせる。
<b>教育</b>	・様々な校外活動に参加し、人との関わりを深め、共に生きることの喜びを体感し、社会の中での自分の役割を認識させる。
<b>目標</b>	・進路学習や総合学習を通じて自己の能力・興味・関心を見つめさせ、生徒の進路実現を果たす。

教育目標	重点項目	重点目標	評価	学校全体の評価と次年度への課題
山口県岩国市の中山間地域である向峠地区に本校を設置している。そうした環境のもと、地域住民との交流や、伝統文化への理解を深める。さらに、地域活動への参加を積極的に進める。こうした活動を通して、自然豊かな環境の中で、生徒が生きる力を身につけられるようにする。また、生徒一人ひとりと向き合い、個々の能力に応じた指導を徹底し、生徒の進路実現を図る。	・生徒一人ひとりの継続的な学習の習慣化と学力の向上	・スクーリング・レポート作成・テストへの個別指導の充実と教科内容の理解	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から、レポート課題学習の一助となる、「答えに至る考え方」を解説したものを作成し、それをレポート返却時に渡すようにした。</li> <li>・解説レポートの作成により、生徒が自学する際に、教科内容の理解も含め、作成の大きな手助けとなった。次年度も継続したい。</li> <li>・一人ひとりの個別指導は十分対応ができています。その上で、登校できない生徒への指導の充実をどう図るかが課題である。</li> <li>・生徒の能力や適性が異なる中で、どうそれに向き合っていくかを常に考えた指導体制の充実を図っていく。</li> <li>・「学習の手引き」を有効に活用することで、さらなる学習活動の充実を目指したい。</li> <li>・生徒の学習の習慣化を図ることで学力の向上を目指し、それを進路実現に繋げる学校の体制づくりの強化に努める。</li> <li>・生徒が自信をもって学校生活が送れるような体制の構築を図る。</li> </ul>
		・学習状況の定期的確認と生徒・保護者への連絡		
		・「学習の手引き」の有効な活用		
		・個別面談の充実と進路実現へのサポート		
	・望ましい職業観の育成	・一人ひとりへのきめ細やかな進路指導の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自らの生き方を考え、進路実現を果たせるよう、進路ガイダンスや進路講演会等、進路行事の充実を図る。</li> <li>・会社訪問、上級学校のオープンキャンパス参加等を積極的に呼びかけ、進路の方向性を探る機会を与える。</li> <li>・早い段階から進路への意識を高め、社会で自立できるような進路選択を考える機会を与える。</li> </ul>
		・進路ガイダンス・個別面談の質の向上		
	・基本的な生活習慣と規範意識の確立  (学校生活の安全と安心)	・社会性と公共心の育成、規範意識の高揚	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携を強化し、生徒の生活習慣の確立を図る。</li> <li>・一人ひとりが場をわきまえた行動がとれるよう、日々の生活を通しての意識付けに努める。</li> <li>・ネットやメール等に関する道徳規範の意識付けの徹底を行う。</li> <li>・道徳規範意識を通して、社会性を身に付けさせる。</li> <li>・家庭との連携を図る中で、今後も自立に向けた支援を行っていく。</li> </ul>
		・教職員の共通理解による生徒指導体制の充実		
	・健全な心身の育成	・心のケアを通して学校生活を援助する体制作り	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーの配置や、教育相談を行う環境整備のさらなる充実が必要。</li> <li>・教職員へのメンタルケアやカウンセリング研修も必要である。</li> <li>・学校・生徒・家庭の連携を深め、生徒が安心して通える学校づくりの構築を行う。</li> <li>・生徒の心身の状況を把握し、適切な対応をとっていく。そのことが、生徒が自信をもって学校生活を送ることができる基本だと考える。</li> <li>・生徒の心に寄り添える教師でありたい。</li> <li>・校外活動を通して友人との交流を楽しむことができた。生徒が充実した高校生活を送れるよう、今後も様々な計画を立案したい。</li> <li>・ボランティア活動を通して、自分が社会の役に立っていることを実感することができた。それが本人の自信に繋がっている。</li> <li>・ボランティア活動を通して、さらに地域との繋がりを広げていきたい。</li> </ul>
		・教育相談体制の充実		
・校外学習や宿泊学習を通して心身の充実や道徳教育の充実				
・ボランティア活動を通しての奉仕精神の育成				
・保護者及び家庭との連携	・不登校、転編入生など多様な生徒への指導	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者との面談を充実させ、生徒が安心して登校できる体制を強化する。</li> <li>・教師への負担が偏らないようにしていくことも必要である。</li> <li>・学校、生徒、家庭との三者の連携を図ることで、生徒が安心して家庭生活や学校生活を送れるようにする。</li> <li>・登校できない生徒、連絡がとれにくい家庭などに対して、その対応をどうするか、教員の共通認識が必要。</li> <li>・生徒の変容に気づき、それに対応できる学校の体制づくり。</li> </ul>	
	・生徒に関する諸問題の解決を図るための家庭との連携強化			
・校外活動への積極的な参加	・自然や地域との触れ合いを図るための企画内容の検討	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外活動に参加することによって、良好な友人関係のさらなる構築ができた。</li> <li>・学年の枠を越えた活動により、社会性が身につく、人間関係の広がりにつながった。</li> <li>・ボランティア活動を通して、地域とのつながりが強化された。</li> <li>・社会参加を通して、自分の役割を再認識する機会が増えた。</li> <li>・教室とは違う形の授業を通して、学ぶことの喜びを感じさせる契機となった。</li> <li>・校外学習やボランティア活動は、教室で学ぶ教科とは違い、生徒も喜んで参加している姿を見ることができた。</li> </ul>	
	・特別教育活動への自主的参加奨励			
	・ボランティア活動への積極的な参加奨励			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：達成できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	学校全体の評価と次年度への課題				
教 務	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの目標を達成できるように、学校の運営に取り組む。</li> <li>基礎学力を定着させ、単位修得に向けての学習の支援を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の年間指導計画を作成し、教科教員間の指導の連携と充実を図る。</li> <li>「学習の手引き」の構成等を検討し、正確で分かり易い内容にする。</li> <li>スクーリングや校外学習を含む年間指導計画を作成し、生徒が積極的に参加できるようにする。</li> <li>レポート・スクーリングの状況を定期的に報告し、無理なく学習できる環境を整える。</li> <li>テストに向けた勉強の支援を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力向上と信頼される学校教育体制の構築を図るべく、活動年間指導計画を立て、教育課程の適正な履行を行った。</li> <li>教科の年間指導計画（シラバス）を作成し、教科教員間の指導における認識を共有できた。来年度も引き続き行いたい。</li> <li>「学習の手引き」を通して、高校生としての意識づけと、本校教育活動の認識の共有化を図る。</li> <li>教育機器のタブレット導入によるレポート学習の利便性と効率化を図りたい。</li> <li>教育機器において、生徒の学力向上や知的関心を高める教材の導入を検討し、教育内容のさらなる充実につなげたい。</li> <li>選挙権年齢の引き下げに伴う教職員の共通理解と、生徒への意識づけを行う。</li> <li>家庭との連携を密にすることで、生徒が安心できる教育体制の充実を図る。</li> <li>本校と各学習センター教員の教科指導の共通理解を図る。</li> <li>レポートの解説を行ったことで、生徒の教科理解につながったことは大いに評価できる。</li> <li>学習する環境を整え、さらに生徒の学力の向上を目指す。</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の能力・進路に応じた科目が履修できるような履修科目の設定を考える。</li> <li>支援システムの効率的な処理ができるようシステムの構築を図る。</li> <li>家庭との定期的な連絡を通して、生徒の学習状況の把握に努める。</li> <li>教科担当によるレポートの添削を充実させ、生徒の教科内容の理解を図る。</li> </ul>						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の興味・関心に気付かせ、それを踏まえて進路の方向性を考えていくようにする。</li> <li>保護者との連携を深め、生徒の進路に関して三者が共有できる環境を整える。</li> <li>進路行事を提供し、自己の進路を考える機会を与える。</li> </ul>			B	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路への意識高揚と、学習に取り組む雰囲気作り。</li> <li>生徒一人一人にきちんと向き合い、彼らの適性、能力を考えた進路実現を目指す。</li> <li>生徒の進路に関する職員間の情報の共有。</li> <li>進路意識を高めるための進路行事や進路講話などの計画を立て、卒業後の進路にさらに繋げたい。</li> <li>国公立大学や私立大学などへのさらなる進路実績。</li> <li>早い段階でのオープンキャンパス等の参加を促すことで進路意識の喚起が必要。</li> <li>必要な進路情報の入手と、教員間での情報の共有化を図る。</li> <li>大学や専門学校とのさらなる連携の強化を図り、生徒の進路実現につなげたい。</li> <li>生徒自身の内面を見つめさせる面談の実施。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>進路における情報収集を図る。</li> <li>学年に応じて段階的な進路指導の徹底を図る。</li> <li>個々の生徒の進路相談を充実させるため、進路関係の情報収集、提供に努める。</li> </ul>						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習する環境を整える。</li> <li>公共マナーの向上と社会的規範の遵守を図る。</li> <li>思いやりのある心の育成を図る。</li> </ul>					B	<ul style="list-style-type: none"> <li>マナーの向上や公共心、道徳心の育成。</li> <li>高校生らしい服装や身だしなみ、TPOを考えた行動がとれるよう、日頃からの指導に心がける。</li> <li>タイミングを捉えた、生徒への指導のアプローチを心がける。</li> <li>学校としての学習する環境、雰囲気作り。</li> <li>相手の思いに至る心を育てていく。</li> <li>生徒に寄り添った指導と教員間の共通理解を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ対策防止基本方針の策定を行い、学校の基本方針を明確にする。</li> <li>教職員間の情報交換を密にし、いじめを未然に防ぐ環境づくりに努める。</li> <li>ネットにおける生徒の動向を把握し、情報モラルの指導を行う。</li> <li>外部機関との連携を図る体制づくり</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめ防止基本方針」の策定を行い、全学習センターを含め「いじめ」の根絶と、その認識を共有したことは評価できる。</li> <li>生徒一人ひとりの様子をきめ細かく見つめていくことが肝心であり、必要と感じたらすぐに対応できる学校体制の組織化が必要である。</li> <li>安易な書き込み、メール等への注意喚起を促す。</li> <li>ネット依存の危険性と、情報モラルの構築を日頃から伝えていく。</li> <li>相手を傷つける不用意な言葉、いじりやいじめの根絶を徹底的に行う。</li> </ul>						
安 全 健 康 管 理			<ul style="list-style-type: none"> <li>心身の健康と自己管理能力の育成を図る。</li> <li>教育相談の有効活用を図り生徒の悩みに対応できる体制作りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の健康診断を実施し、個々の健康維持・安全衛生面について配慮していくことで、生徒が良好な学校生活が送れるように努める。</li> <li>基本的な生活習慣の確立を目指し、自己管理能力を高める。</li> <li>不登校傾向の生徒に対しては、家庭訪問を行いながら家庭との連携を図り、生徒が学校生活が送れるよう信頼関係の構築に努める。</li> <li>不審者や緊急事態への対応の機能の充実を図る。</li> <li>地域の関連機関との連携を深め、生徒理解に努めることで、生徒を取り巻く環境の改善を図る。</li> <li>生徒の健全育成を図るため、社会のルールを守るよう指導する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の健康診断を実施したことで、心身の健康状態を把握ができた。</li> <li>学校安全計画の策定を行い、全教職員と情報の共有化を図った。</li> <li>緊急時の非難対応や避難経路の確認を行うことで、生徒が安心して学校生活を送れるような体制作りができた。</li> <li>登校が難しい生徒への細やかな対応がさらに必要であり、家庭との連携も不可欠である。</li> <li>安心して学習できる環境を整えるため、生徒の健康状態を本校と各学習センターとで共有し、生徒の健康面に配慮した。</li> <li>緊急時、災害時、不審者対応など危機管理に関する意識の徹底を常に図っていくかねばならないと思う。</li> <li>地域との連携による安全対策の必要性を感じる。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒募集のための広報に努める。</li> <li>地域との連携を深めながら本校の教育目標を理解してもらう。</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度ホームページの改訂を行ったことで、本校の教育目標がより広く浸透し、教育効果も上がった。</li> <li>本校と学習センターとの教育目標等の共通理解を図り、松陰高校としての共通した認識を図る。</li> <li>地元の各学校との信頼関係の構築を図るためにも、学校訪問の機会を増やし、情報交換を行ってきたい。</li> <li>学校案内のパンフレットの内容の充実・精選を行うことで、生徒の入学に繋げたい。</li> <li>学校、学習センターの特徴を生かした生徒募集を行って行く。</li> <li>学校案内のパンフレット発行の時期を次年度は少し早めたい。</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校案内パンフレット、ホームページの内容を工夫・充実させる。</li> <li>地域・他校との連携を深め、生徒募集の効果的な広報に工夫・努力する。また、関係する学校・機関の訪問を積極的にし、生徒の理解に努める。</li> </ul>							
	生徒募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒募集のための広報に努める。</li> <li>地域との連携を深めながら本校の教育目標を理解してもらう。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校案内パンフレット、ホームページの内容を工夫・充実させる。</li> <li>地域・他校との連携を深め、生徒募集の効果的な広報に工夫・努力する。また、関係する学校・機関の訪問を積極的にし、生徒の理解に努める。</li> </ul>			B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度ホームページの改訂を行ったことで、本校の教育目標がより広く浸透し、教育効果も上がった。</li> <li>本校と学習センターとの教育目標等の共通理解を図り、松陰高校としての共通した認識を図る。</li> <li>地元の各学校との信頼関係の構築を図るためにも、学校訪問の機会を増やし、情報交換を行ってきたい。</li> <li>学校案内のパンフレットの内容の充実・精選を行うことで、生徒の入学に繋げたい。</li> <li>学校、学習センターの特徴を生かした生徒募集を行って行く。</li> <li>学校案内のパンフレット発行の時期を次年度は少し早めたい。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>学校案内パンフレット、ホームページの内容を工夫・充実させる。</li> <li>地域・他校との連携を深め、生徒募集の効果的な広報に工夫・努力する。また、関係する学校・機関の訪問を積極的にし、生徒の理解に努める。</li> </ul>				

※評価基準： A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:達成できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	学校全体の評価と次年度への課題
教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の個性や能力に応じた教科指導の実践</li> <li>教科の特性を生かした指導</li> <li>担当教科との連携による生徒の指導と把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導内容を振り返り、次のスクーリングに生かす。</li> <li>基礎学力の定着を図り、生徒ができることの喜びを感じさせる。</li> <li>生徒一人一人の能力・実態に合わせた教材の提供を行う。</li> <li>基本的な生活習慣を身に付けさせ、計画的に学習させる。</li> <li>レポート指導や添削で生徒への理解を促す。</li> <li>生徒の個性や能力に応じた教科指導の実践を図り、進路の実現を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習習慣の確立を目指し、継続的学習の意識づけをすることで、さらなる学力の向上を目指したい。</li> <li>生徒の学力に応じての細かい指導とその体制づくり。</li> <li>スクーリング、レポートの実施状況の把握と、生徒が計画的に学習していける支援体制の充実。</li> <li>レポート指導や教科指導など、生徒一人ひとりの課題にどう向き合っていくかが問題となる。</li> <li>生徒の関心を引き付ける教員の教材研究。</li> <li>生徒の自信に繋がるような言葉かけや心配りを常に教員が心がける。</li> <li>正誤だけの添削ではなく、正解へと導く添削指導内容の徹底を行う。</li> <li>レポートの解説を作成することで、生徒の教科内容の理解に繋げてきた。次年度も継続していきたい。</li> </ul>
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立と学習活動の定着化</li> <li>学習環境作りの推進</li> <li>多様な生徒への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の進路目標を設定し、自分に向き合う姿勢を育成する。その中で自信を持たせるような環境作りを目指す。</li> <li>通信制のシステムの中で、個別指導をきめ細かく行う。</li> <li>場をわきまえた行動がとれるような学習の環境作りを施す。</li> <li>体験学習や学校行事への積極的な参加を促す。</li> <li>生徒の様々な状況を把握し、各生徒に適切に対処できるように心がける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が安心して登校できる体制作りと、生徒と生徒を取り巻く環境の情報の共有化を図った。</li> <li>高校生としての意識づくりと、新しい環境に慣れるための雰囲気作りを心がけた。</li> <li>学校行事への積極的な参加と、新たな友人をつくる環境作りを目指した。</li> <li>丁寧な指導による苦手科目の克服に努め、生徒の学力向上を目指した。</li> <li>これまでの生活習慣の見直しをさせることで、基本的な生活習慣の確立に繋がった。それは、高校生へのスタートを始めさせる契機ともなった。</li> <li>個々の生徒に対する教育的配慮を心がけたが、全員にそれが対応できたかは多少の疑問も残る。常に生徒の様子を見ていくことが必要。</li> <li>学習環境が変わることへの生徒の心理的負担を軽減する意味でも、家庭との連携による生徒理解が必要。</li> <li>生徒の様子を観察しながら、気づきに対する教員の指導と資質の向上。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の習慣化の定着による学力の向上</li> <li>進路意識の向上を目指す。</li> <li>学校行事への積極的な参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導で生徒の自覚を促し、スクーリング・出席率・レポートの提出率の向上を目指し、学力の向上を図る。</li> <li>悩みを抱えている生徒の情報把握・生徒理解に努め、適切な対応に心がける。</li> <li>進路の情報収集に努め、進路目標を持たせる。</li> <li>学校行事への参加を呼びかけ、友人との交流を図る。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の中心的存在としての意識づけをさせることで、生徒が自信をもてるような雰囲気作りを努めた。</li> <li>進路や学習に対する個別面談の徹底を図り、卒業後の自立に向けての支援を行ってきた。</li> <li>進路に関する行事やイベントを計画することで、進路指導の充実は図れた。次年度も継続して行きたい。</li> <li>家庭学習の定着を図り、学力を向上させることを目指したが、個々の能力に応じた指導はまだ課題が残る。</li> <li>個々の能力や興味関心、適性に応じた進路情報の提供を行い、進路への関心を導いてきた。</li> <li>次年度に向けた学力の定着や進路の意識づけを行いたい。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位取得の徹底と卒業への意識づけ</li> <li>進路希望の実現</li> <li>スクーリングや校外学習への積極的な参加による学校生活における充実感の向上</li> <li>学習意欲の持続・学力の向上</li> <li>進路指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクーリングや面談を通じて学習指導の徹底を図り、単位取得を促し、卒業への意欲を高める。</li> <li>将来に向けての動機付けを行い、進路に対する意識を向上させる。</li> <li>体験学習をはじめとした学校行事への参加を呼びかけ、地域と学校との一体感を味わわせる環境づくりに努める。</li> <li>生徒のレポート提出やスクーリングの参加状況を把握し、生徒の卒業を確実に進行。</li> <li>常勤・非常勤教員と連携し、生徒一人ひとりに応じた適切な学習・進路指導に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々に応じた適切な進路情報の提供を行い、進路実現へと繋がった。</li> <li>進路実現に向けての生徒の意識向上を図り、社会での自立を目指す指導を心がけてきた。</li> <li>個別面談の徹底を図ることで、生徒の不安や悩みを軽減し、自信へと繋げる契機とした。</li> <li>受験に必要とされる、小論文や面接の指導をきちんと行ってきた。</li> <li>生徒、保護者、学校との連携を密にし、生徒の進路実現に向けて三者が一体となれるよう努めた。</li> <li>進路実現を果たすための学力向上と、それへの細やかな指導の徹底を行った。</li> <li>各学習センターとの連携を密にし、情報の共有化を図った。</li> <li>今後も進路開拓の必要性(大学・専門学校・企業)を感じている。</li> <li>卒業に対する意識付けと自立への後押しを行い、卒業へと繋いだ。</li> </ul>
事務関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、保護者からの依頼文書等の対応を適切に行う。</li> <li>関係機関との信頼関係の構築を図る。</li> <li>学校業務が円滑に図れるよう心を配るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学割や定期、願い届出等に対する処理を適切に行っている。</li> <li>関係機関との信頼関係を築きながら、必要となる文書の作成や生徒・保護者への配布などを適切に行うようにする。</li> <li>学校業務を行う上での環境の整備に心がける。また、学校への問い合わせ等の外部との対応も的確に行うようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生証発行では、即日発行を心がけているが、他業務との繁忙期が重なると、学習センターや生徒に発行を待たせる場合もあった。</li> <li>今後も常に誠意のある対応を心がけて行きたい。</li> <li>年度末～年度始めにかけては、支援金事務、学割発行事務、会計処理の仕事が重なるため、適切な処理と迅速さが求められる。</li> <li>支援金関係の書類の配布と収集に関しては、本校と学習センターとの連携、信頼関係の構築が今後も必要となる。</li> <li>学校の窓口として、生徒や保護者、外部との対応を行うことになるが、常に、丁寧で、信頼されるようでありたい。</li> </ul>

※評価基準： A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:達成できていない